

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201783		
法人名	有限会社 三共システム		
事業所名	グループホーム 三共グリーンホーム		
所在地	青森県弘前市泉野2-8-6		
自己評価作成日	令和4年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3-20-30		
訪問調査日	令和4年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地し、日中は車通りも少なく、ゆっくりと散歩を楽しむことができます。 敷地には庭園があり、ゆったりとした静かな時間が流れています。 家庭的な温かい雰囲気を大切にし、その人らしく、いきいきとした生活ができるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に様々な木や草花や果樹が植えられ、天気の良い日には花を觀賞したり、ブドウやイチジク等の果実を収穫して楽しむことができる環境である。 管理者や職員は、「人としての尊厳を守りつつ、愛情をもって明るい日常を支援することを目的とする」というホームの理念を大切にし、利用者が自分らしく、生き生きと暮らし続けることができるよう、協力し合いながら日々の業務に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内の数箇所に掲示し、日々のケアの中で共有して、実践につなげている。	ホーム開設時に作成した独自の理念があり、ホーム内の職員がよく目にする場所に掲示している。管理者及び職員は理念に込められた思いを共有し、理念に沿ったケアができるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入しており、回覧板や町会長さんを通して地域の情報を得ており、清掃活動や地域行事に積極的に参加して、地域との交流を深めるようにしている。	コロナ前は町内の夏祭りに参加したり、清掃活動に職員が参加する等、ホームを理解してもらえるように積極的に取り組んでいたが、現在はほとんどの行事等が中止となっている。また、町会長と話す機会を設けたり、回覧板を通して、地域との関わりを持てるように取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学や家族との面会等で、認知症についての質問や相談があった場合はアドバイスをを行っている。中学校の福祉体験ボランティアを受け入れて、認知症高齢者とのコミュニケーションについて説明をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には町会長さんと民生委員さんが毎回出席され、地域の情報を得ている。ホームでの現況(行事、事故等)を報告して話し合い、会議録を職員に回覧して、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議には町会長や民生委員が出席し、地域の情報や様々な意見や提案をいただいていたが、コロナ禍により、対面での開催が困難なため、2ヶ月に1回メンバーにメールを送り、意見をいただけるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や広報誌でホームの実状を見ていただき、サービス向上に向けてアドバイスをいただいている。	市の担当課とは必要に応じて、メールや電話を利用して、質問や相談等を行っている他、ホームの広報誌等を届けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している他、内部研修も行い、身体拘束による弊害についても学んでおり、身体拘束をしないケアの実践を心がけている。	マニュアルを作成し、理解・知識を深めるため、職員会議等を利用して勉強する機会を作っている。管理者・職員共に身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでおり、玄関は夜間以外は施錠せず、帰宅願望が強い時には寄り添って話を聞いたり、一緒に散歩する等の対応をしている。また、やむを得ない場合に備えて、同意書や経過記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、心理的虐待や「不適切なケア」を自分で気づかないうちに行っていないか、自身のケアを振り返っている。ホーム独自の虐待防止に向けた理念があり、全職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修で成年後見制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を基に説明し、不安や疑問点を尋ねながら、納得してもらった上で入居していただいている。改正の際にも理解していただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設け、意見箱を設置している。面会時に家族が希望や要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。出された苦情や要望は速やかに検討し、ケアの改善に努めている。また、利用者の希望や要望については、日々の言動から察するように取り組んでいる。	日々のケアで接する中で、利用者が気兼ねなく話ができるように努めている。コロナ禍前は家族との面会時に利用者の体調や生活状況等を報告しながら、意見を聞くように取り組んでいたが、現在は面会が中止となっているため、電話連絡した時に話を聞くようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の棟会議や年に数回の全体会議において、職員の意見を把握するように努めている。また、利用者の生活の質の向上や業務の改善に向けて、反映させるよう努めている。	ユニット毎の申し送りで意見交換することができ、個人的な相談も管理者や各ユニットの責任者に話すことができる環境である。月1回の職員会議は対面での開催を中止しているが、用紙に意見等を記入してもらい、管理者が取りまとめる体制を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って、職場環境や条件の整備に努めている他、講習受講希望者の勤務体制等を配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数等を基に、必要に応じて外部研修に参加させ、研修後は研修報告書を回覧している他、全体会議での伝達講習にて、全職員に周知している。また、内部研修を月1回行い、職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のグループホーム介護支援専門員連絡会に参加しており、情報共有したり、知識を習得することで、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や生活状況の把握に努めている。また、本人の思いや希望に耳を傾けて、本人の不安を受容し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に思っている事を聞き取り、速やかに相談に対応して、気兼ねなく話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話や本人の状況を見極め、その時々状態により、他のサービス利用に関しても選択肢として提示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き等の軽作業を一緒にに行い、その際は必ず感謝の言葉を伝えており、余暇活動や行事と一緒に楽しむことで、相互関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「いずみ野通信」(月1回)により、ホームでの生活を家族にお知らせする他、個々のお手紙や面会時に近況報告する等、情報の共有に努めている。また、行事にも参加していただくことで交流を深め、より良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報や日々の生活の中で、馴染みの人や場所の把握に努め、本人の希望に応じて、お寺参り等に出かけられるよう支援している。	コロナ禍のため面会を中止しており、電話や手紙でのやり取りを手伝う等して、関係が途切れないように支援している。また、受診の帰りに馴染みの場所に寄る等して、できるだけ希望に沿うように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間や食事の時間に利用者同士が声をかけ合い、共に過ごすことにより、交流ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じてできる範囲で本人や家族からの相談に乗ったり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者個々の思いや希望を聞き出すように努めており、必要に応じて、家族からも情報を収集している。毎月の棟会議で個別ケアについて話し合い 職員間の共通理解を図りながら、利用者の意向の把握に努めている。	理念に沿って、常に利用者個々の尊厳を守りながら、ケアを通して思いや希望の把握に努めており、表情や言動からも察することができるよう取り組んでいる。また、家族からも電話連絡時等に情報を得られるように働きかけ、得た情報は申し送りや介護日誌等を通して、職員同士で共有を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、本人との日常会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、行動や表情からの気づきを大切に、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議等で職員の気づきや意見を出し合い、本人や家族の意向を基に定期的に見直ししながら、介護計画の作成をしている。状態に変化があった時は、都度見直しをしている。	日々の何気ない会話からも利用者の希望を把握するように心がけ、家族には手紙を送って意見を伺い、棟会議で職員の気づき等を意見交換して、一人ひとりの希望や状態に合った介護計画を作成している。期限を6ヶ月と設定し、3ヶ月毎に担当職員がモニタリングと評価を行い、状態変化等の必要な時には随時話し合い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の暮らしや本人の言葉を具体的に記入し、職員間で情報を共有している。月1回の棟会議で個別ケアについて話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏状態が強い時はその方の精神面の安定を優先して、散歩やドライブ等の柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会への参加を通して、利用者が社会の一員であることを再認識され、生き生きとした表情が見られている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、入居前からのかかりつけ医を継続する等、本人や家族が希望する受診ができるように支援している。	入居時に受療状況を聞き取り、入居後の受診についても話し合っている。入居後は月1回の往診も利用可能であるが、本人や家族の希望があれば、職員が医療機関への付き添いを行っている。家族とは随時相談して適切な医療機関を受診できるように支援しており、必要な時は家族にも受診に同行していただき、情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の訪問時に、日々の状態や受診報告を行い、気になる点を相談したり、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至らないように、異常を早期発見し、緊急時の受診対応ができるように心がけている。入院をした場合には家族や医療機関と連絡を密にとり、情報交換をしている。また、職員は入院先を見舞い、関係の継続を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期への対応をしない方針を明確にし、入居時に説明して納得を得ている。また、日常的な健康管理や急変時の対応について利用者や家族と話し合い、医療機関との連携を図っている。	重度化や終末期の対応について、入居時、家族にホームの方針を説明している。日々の健康管理は、訪問看護師の助言を得ながら職員が行い、入居後の状態変化に応じて随時家族と話し合いの機会を作り、不安を抱くことがないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、急変時に対応できるように体制を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 昼夜を想定した避難訓練を行っており、地域にもチラシを配り、参加協力をお願いしている。また、火災発生時には近隣の協力者宅にも連絡が入り、協力を得られる体制を整えている。毎月、ホーム内外の安全点検を行っている。	日中・夜間を想定して年2回、避難訓練を行っている他、緊急時の連絡網には町会長や民生委員も含まれており、災害時に協力を得られるようにしている。月1回、担当職員が点検リストに沿って、水漏れや漏電等の自主点検を行うと共に、年2回、業者に委託して消火器やスプリンクラー等の設備点検を行っている。また、災害発生時に備えて、水や米、石油ストーブ等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの得意な事を把握し、活躍できる場面作りや役割作りをして、自尊心を高める対応を心がけている。また、声かけや対応で、自尊心を傷つけることがないように心がけている。	プライバシーや尊厳に配慮したケアを心がけ、個々のペースに合わせた支援ができるように取り組んでいる。また、不適切なケアが見られた時は、各ユニットの責任者や管理者が注意して、改善につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に合わせ、自己決定できるように支援している。言葉だけでなく、行動や表情からも汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、個々のペースを大切にするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にして、本人の好みの服を選び、おしゃれができるように支援している。また、好みの洋服の購入や馴染みの理容店で染髪する利用者のために、外出支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いや食事量を把握して、代替品を用意したり、盛り付けを工夫している。一人ひとりのできる範囲で、食材の下処理や片付けをお手伝いしていただいている。	利用者の身体状況に合わせて食事形態を工夫したり、誕生会やクリスマス、敬老会等には行事食を準備する等、食事を楽しめるように支援している。また、食器拭き等、利用者一人ひとりの状態や意思に応じて一緒に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、カロリーや食事バランスに配慮している他、一人ひとりに合った食べやすい食形態で提供する等の支援を行っている。また、食事量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には緑茶うがいを行い、風邪や誤嚥性肺炎の予防をしている。また、個々の状態に応じて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄記録を活用して、事前誘導を行い、失禁予防に努めている。失禁がみられた場合は他者に気づかれないように配慮して、速やかな対応を心がけている。	個々の排泄状況を記録し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。また、利用者の体調や状態変化に応じて、随時職員間で排泄用品の変更やケアの方法等を話し合い、行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便確認と必要に応じた排便コントロールを行っている。個々に食後のトイレ誘導をして、水分摂取や乳酸菌飲料の提供により、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴ではあるが、場合によりシャワー浴等の対応をしている。入浴剤を入れて入浴を楽しむことができるように工夫している。	週2回は入浴できるようにしており、希望があれば同性介助も可能である。また、利用者が入浴を楽しみ、ゆっくりと温まっていたけりよう、入浴剤を使用したり、拒否がある場合は時間を置いて、何度か声がけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調を考慮して、休息していただいている。なるべく薬に頼らずに安眠できるように、日中の活動を増やして、入眠できる環境を整える支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は個人ファイルで常に確認できるようにしている。薬の処方や用量の変化は、受診報告書により職員間で周知を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ事を把握し、個々に合った気分転換を図れるような支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出行事が予定されている他、日常の中でも個別に買い物やドライブ、ホーム周辺の散歩等の支援を行っている。	コロナ禍前は月1回、利用者の希望を聞いて外出を計画していたが、現在は外出行事を中止しており、通院の帰りに寄り道したり、天気の良い日に敷地を散歩する等して気分転換を図っている。また、2ユニット合同で行うレクリエーションを増やし、交流の機会を作って、楽しく過ごせるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に買い物の同行をして、本人の好きな物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、ホームの電話を利用して、家族等に連絡ができるように支援している。手紙を出したいとの希望には、代筆を含めて応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は温度や湿度、匂い、音量、光の強さを調節し、明るく、清潔な空間作りを心がけている。季節感を取り入れたディスプレイや花を用意し、窓からは庭や畑も見え、季節を感じる事ができる。	ホールには大きな楕円形のテーブルが設置されており、利用者が全員顔を合わせることができるようになっており、アットホームな印象である。また、壁には季節の装飾が施されている他、パネルヒーターや加湿器を利用して、快適な空調となるように管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の数箇所にベンチを置き、気が合う利用者同士が寄り添えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や家族の写真等を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居の際に馴染みの物を持って来てもらうように働きかけており、様々な物が持ち込まれている。写真等を自由に飾ってもらい、利用者が自分らしく安心して過ごせるよう、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事、できない事を把握して、状態に応じた環境整備に努めている。		